



〒272-0832 市川市曾谷7-18-1 TEL047(371)7888

曾谷小学校区子ども安全ホームページ <http://www.soyasoya.jp>

学校だよりカラー版も掲載されています

38年目の創立記念日を迎えて

市川市立曾谷小学校長 八重樫 茂

6月3日より2泊3日で新潟方面に「自然教室」で行くことを1番の楽しみと書いた子どもが多かった5年生が、「5年生になって」の作文の中で初めての委員会活動や家庭科の勉強などに意欲を持ったり、「休まず、遅刻せず、給食を残さない」や「運動会をがんばる」などのめあてを掲げたりして、生き生きと学校生活に前向きに取り組む姿にとてもうれしく思います。中には「5年生になってとても目覚めがいい」とか「桜並木の中を登校するのがとても楽しみになった」といった情緒面での充実感を書いている子もいました。

さて、6月1日は曾谷小学校の38年目の創立記念日です。昭和47年4月1日に国分小の校庭の仮校舎で開校して以来、分離元の国分小と同じく6月1日を創立記念日としてきました。開校当時の沿革誌（初代校長佐藤政雄先生記述）によれば、《昭和39年に国分高校の設立に伴いバス路線が整備され、国分地区に宅地の造成、分譲が大規模に行われ、急速に住宅化し人口、児童数が激増した。それに伴い曾谷地区に学校を建設しようとし、当初は台地上に予定されたが文化財保護のため平地に変更され、現在の場所に決定した。昭和47年4月1日の開校式の際、「曾谷小を創り、曾谷小の先祖にならなければ」という誓いに身が引き締まる一瞬であった》とあります。現在の地に新校舎が落成し、昭和48年4月1日に移転してきました。また、昭和51年度には、曾谷小の歴史上最大の44クラス児童数1855名が記録されましたが、これをピークに児童数は減少し、平成に入ってから20学級以下となり、最近20年間は18クラス前後児童数は5百数十名が続いています。そして、今年3月の卒業生も含め実に**5251名の卒業生**を輩出しています。その大勢の卒業生の皆さんが、それぞれの成長を遂げ、それぞれの人生を歩まれ、再び曾谷の地に戻ってきたり、あるいは胸の中に曾谷小の思い出を大事にされていたり、と考えると感慨深いものがあります。

この2カ月の間でも、曾谷小の卒業生が小さい頃のチョウなどの標本のコレクションを学校に寄贈してくださったり、母校の思い出や自分が育った曾谷の地域に対する思いを曾谷の地形を千分の一の立体模型にあらわし曾谷小を保管場所として持ってきてくれたり、ということがありました。特に、この立体模型は上記の「曾谷小学校区子ども安全ホームページ」を制作した明治大学理工学部建築科都市計画研究室の方々によって製作されたものであり、同研究室は「曾谷地区防犯まちづくり」にも協力いただいております。

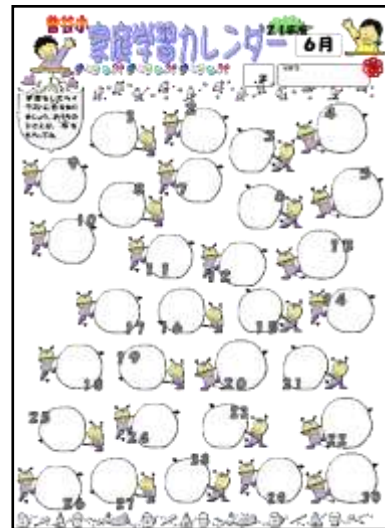
そこで、ちょうど6月1日の創立記念日に全校朝会を行い、卒業生から子どもたちへのメッセージとともに、立体模型をすばらしいプレゼントとして受け取ることにしています。これを学校では、「地域のようす」や「地形・等高線」などの学習にも活用していきたいと思ひます。



5/13 5年曾谷小水田で田植え



桜まつりで展示された立体模型



家庭学習のきまりにより5月から始まった家庭学習カレンダー